

# 第1学年 算数科学習指導案

日時：令和元年9月19日（木）5校時

児童：知来別小学校1年生 9名

指導者：〇〇 〇〇、〇〇 〇〇

## 1 単元について

### 第1学年

1、単元名 たしざん

#### 2、単元について

これまでに、単元5「ぜんぶでいくつ」では、加法の意味（増加、合併）と、0を含む一位数に一位数をたす計算で和が10以下（繰り上がりなし）のものについて扱ってきた。また、10に対する補数に着目する考えを単元4「いくつといくつ」で学習し、単元10「10よりおおきいかず」では数を「10といくつ」と見る見方を学習してきた。

これらを元に、本単元で、繰り上がりのある一位数同士の加法を学習する。一位数同士の加法で答えが一位数の範囲を超える場合は、加数分解や被加数分解といった方法で、10のまとまりを作り、10といくつとする計算に仕方に気づかせることになる。一位数同士の加法はこれからの学習する加法の基礎となる計算であるから、反射的に結果が得られるまでに習熟する必要がある。

既習の加法計算などを使って、繰り上がりのある加法の計算の仕方を考え、表現させることが大切である。その際、タイルなどの半具体物を用いて、考えることができるようにする。さらに、それを使って自分の考えを説明できるようにさせたい。

## 2 指導計画

小単元名・時数	ねらい・学習活動
8時間	<p>①加法の作問をして、既習の計算とそうでない計算があることに気づく。 ・牧場の場面絵を見て加法の問題を作り、既習の計算の式や答えの求め方をふりかえったり、まだ勉強していない計算はどれかを考えたりする。</p> <p>②, ③一位数+一位数で繰り上がりのある加法計算の仕方を理解する。(7+6型) ・5のまとまりが2つで、10に繰り上がる計算の仕方を考える。 ・繰り上がりのある加法の計算練習をする。</p> <p>④一位数+一位数で繰り上がりのある加法計算の仕方を理解する。(3+9型) <b>本時</b> ・5のまとまりを加数分解・被加数分解的な考え方を用い作る計算の仕方を考える。</p> <p>⑤一位数+一位数で繰り上がりのある加法計算の仕方を理解する。(3+9型) ・繰り上がりのある加法の計算練習をする。</p> <p>⑥, ⑦一位数+一位数で繰り上がりのある計算の仕方を理解する。(加数分解・被加数分解) ・加数分解・被加数分解で繰り上がりのある計算の仕方を理解する。</p> <p>⑧一位数+一位数で繰り上がりのある計算ができる。 ・繰り上がりのある加法の文章題を解いたり、問題を作ったりする。</p>
計算練習をしよう 2時間	<p>⑨一位数+一位数で繰り上がりのある計算を習熟する。 ・計算カードを用いて加法の計算練習をする。</p> <p>⑩同じ答えの加法の式を見つけて順序よく並べることを通して、被加数や価数の変化の決まりに着目することができる。 同じ答えの加法のカードを順序よく並べながら、決まりに着目して、他にも同じ答えになる加法の式を見つける。</p>
まとめ 1時間	<p>⑪単元のまとめをする。 ・テスト</p>

## 3 学校研究とのかかわり

研究主題：仲間とともに 考えることを楽しむ 子どもの育成～（「知小式学び合い」の確立）

### <研究仮説>

言語活動を重視した授業づくりをすることで人とつながる力や表現力が身につくだろう。

### <3年次 R元年度>

#### ・発達段階に応じた「言語活動を重視した学び合い」を実践する(研究教科:算数科)

- ・2年次の研究を受けて、「言語活動を重視した授業づくり」について研修を深め、「学び合い」の効果的な取り組みを実践していく。
- ・算数科での言語活動の研究。
- ・学び合いの場の適切な設定。
- ・友だちの意見を聞ける雰囲気作りや学習形態の工夫。
- ・3年間の研究のまとめ。
- ・次年度以降の研究の検討・構想。

### <研究を支える土台>

- ・ 学び合いの考え方を浸透させる学級経営～「誰も見捨てない」「みんなができるようになる」
- ・ 「考える力」「つながり合う力」に視点をおいた学級経営
- ・ 基礎基本の押さえを明確にした教育課程の見直し（教務と連携して）
- ・ 学校全体で読書の取り組みを工夫・改善
- ・ 家庭と連携した児童の生活習慣の改善
- ・ 小中連携を高め、一貫した学力作り

### □知来別小学校における算数科言語活動の充実のためのポイント

#### ①学び合いの時間をじっくり確保する。

- ・ 学び合いの時間を確保し、「じっくり自分で考える」、「友達と相談する」、「考えを説明し合う」、「分からないことを友達に聞く」などの活動を行うことで、主体的に学ぶことができる。

#### ②友達の書いた式をよんで、図に表したり、説明を書いたりする活動を取り入れる。

- ・ なぜその式を立てたのか、数値は何を意味しているのかなどについて、図と式を関連付けて理解する力を育てる。

目標  
 ・一位数+一位数で繰り上がりのある加法計算の仕方を理解する。(3+9型)

学習内容

教師の動き

つかむ  
(7分)

○前時を想起する。  
 7+6型のタイル計算の確かめ

○問題を知り、題意を捉える。

さくのなかにひつじが3とういました。9とうきました。ぜんぶでなんとうになったでしょう。

きっと、また繰り上がりだ。

○めあての確認をする。

3+9の計算をタイルでやろう。

昨日と何が違うのかな？

簡単だ。

やったー。

タイルなら何とかできるかも。

○前時に学習した、黒板を使ってたし算をタイルで確認。  
 「5と5で10」を作って「繰り上がり」ポイントを確認。

○今日の問題を板書

支援員の動き  
 ・ノートに目あてを正しく書き写すよう声かけ。

見つける  
(20分)

タイルの式を作ろう。

あれ？5が2つないぞ！

繰り上がらないのかな。

「5」を自分で作ってもいいのかな？

きっと繰り上がる。だって片一方9だもん。

○ホワイトボードとタイルを配付

○気づいたことがあるか確認

支援員の動き  
 ・集中しきれない子への声かけ。

深める  
(10分)

タイルで、計算しよう。みんなでやってみよう。

5と5で10。一本変身繰り上がり。  
 1本2個で、こたえは12。

やっぱり、5を作って良かったんだ！

ちょっと難しいなあ。

自分一人のできるかな？

これならできそう

違う問題で確かめよう。3+8！

ぼくはできた！

なんだか、わからなくなっちゃった

まだ、自信ないなあ。

やり方を覚えられたかも

教えて！

5がない時は、5を作って5と5で10をする。

○唱え方、動かし方を確認。教師のみ1回、教師と同時1回。計2回。

支援員の動き  
 ・教師と一緒に動かしているか確認。  
 ・動かし方を支援

○タイルで計算するよう指示。  
 ○学び合いをやることを確認(学びあい)  
 言語活動充実ポイント

支援員の動き  
 ・つまづいている子への助言。  
 ・手伝える子への声かけ。

○ノートに書く？

振り返る  
(8分)

自分だけでできるか。やってみよう！

練習問題 4+9 2+9 4+7 4+8

○残り時間に合わせて問題数を調節  
 ○できたら○つけ  
 評価 3+9型のタイル計算が理解できているか

5 本時の評価

知 一位数+一位数で繰り上がりのある加法計算の仕方を理解できたか。(3+9型)

6 板書計画

さくのなかにひつじが3とういました。9とうきました。ぜんぶでなんとうになったでしょうか。

めあて

3+9の計算をタイルでやろう。

5がないときは、5をつくって5と5で10をする。

